

保育ドキュメンテーションについて

前回の「絆求めて」で、松本光明幼稚園のドキュメンテーション、ラーニング・ストーリーの実践について触れさせていただきました。今回は、「保育の可視化」と保育ドキュメンテーションについて紹介させていただきます。

<保育の可視化について>

保育の可視化は、保育ドキュメンテーションとも言われます。これには様々な手法があります。例えば、ラーニング・ストーリー、ポートフォリオ、ボードフォリオなどがこれにあたります。「お便りの配布、壁新聞、活動の様子を写真で掲示、園児の制作物の掲示」など、活動を視覚物にしたものはすべてこれにあたるかと考えてもかまいません。大事な事は、「どんな目的で保育ドキュメンテーションを活用するか」が大切です。保育記録ツール、保護者との対話ツール、園児個別支援ツール、関係機関との接続ツール ……

保育の可視化には、様々なメリットがあります。主な効果を挙げてみると、

- ①子どもの「育ち・成長」が実感しやすい
- ②園児のことや保育の取組に関わる情報を共有しやすくなる
- ③コミュニケーションにつながる（保育者と園児、保育者と保護者や地域、保育者同士）
- ④子ども自身や職員にとっての「活動の振り返り」になる（・目標に対してどのような保育ができたか
・③と合わせ、保育の多面的評価ができる ・個別最適化への対応（集団→個へ） など）

<保育ドキュメンテーションについて>

8月3日の現職教員研修で講師をお願いしました、大豆生田啓友先生（玉川大学教育学部 教授）の著書に「保育ドキュメンテーションのすすめ」があります。以下に先生のご著書を基に、保育ドキュメンテーションについてまとめてみました。

保育ドキュメンテーションという言葉を目にすると、なんとなく難しいと考えてしまいがちですが、大豆生田先生は、「保育ドキュメンテーションは、写真付き記録」と説明しています。その上で、保育ドキュメンテーションの構成要素として、次の5点を挙げています。①子どもの活動の写真や作品、②エピソード、③エピソード記録、④タイトル、⑤子どもの育ちや今後の支援 ※これは発展的要素で、なくてもかまいません

この5つの要素について、少し詳しく説明すると、

- ①写真や作品…こどもが熱中している場面や調べたもの、作ったものの写真など、記録として残したい、伝えたいと思う写真を準備
- ②エピソード…子どもの具体的な姿を客観的に記録したもの
- ③エピソード記録…子どもの活動について、保育者が感じた「見取り」を入れたもの（事実の列記ではなく、子どもの探究心や学びについてコメントしたもの）
- ④タイトル…読み手にインパクトを与える言葉で表現する（思わず読みたくなるような端的な言い回し）
- ⑤子どもの育ちや今後の支援…活動を通してどんな力が育っているかを分析、今後更に力を伸ばすための具体的な手立てや、保育者としてその子によせた願いを記述

<具体的な例を紹介します>

保育ドキュメンテーションについて、大枠を説明しましたが、実際には「こうでなくてはいけない」という決まった形式はありません。あくまでも保育の可視化のツールであり、それぞれの園で形式を工夫し、目的を明確にしたものを作成していくことが大切です。下記に一例を紹介します。

※①～⑤の番号は、前ページの5つの要素に連動しています。

2021年7月19日

④ これでだいじょうぶ、ゴールできるぞ！

遊び大好き組 5歳4か月 昆虫博士君 記録者：ひげ爺さん



今度は、ダンゴムシがもっと迷う迷路に、変えたいなあ。

大きな木っ端は、倒れちゃう。そうか、後に木を置けば倒れないぞ！

③吹き出しもエピソード記録です

園庭でダンゴムシ発見。さっそく図鑑で調べたり、先生に質問したりし、知識吸収。形のよく似た虫にワラジムシがいることやその違いも理解する。木っ端を使って迷路を作り、その中をダンゴムシがスタートからゴールまでたどり着く遊びに熱中。この日は、園庭の木の下で迷路づくりを開始。迷路はほぼ完成したものの、ダンゴムシの不規則な動きに悪戦苦闘する。地面と木っ端の隙間から脱走するダンゴムシ出現。木っ端の隙間をなくそうと、木っ端を並べ替えたり、隙間に土を入れたりする。

③エピソード記録

②エピソード部分

- 日頃はあまりしゃべらない昆虫博士君。今日は、園長先生や、ひげ爺さんの質問に意欲的に返答。「逃げなくなったね。」という言葉に納得のうなずきポーズを見せる。
- 木っ端の壁をよじ登るダンゴムシに気づき、木っ端を高いものに変更。しかしバランスが悪く倒れてしまう。すかさず、壁の後ろに添え木をする。自分の工夫に得意げな顔の昆虫博士君
- ゴールしたダンゴムシの登場に、「もっとダンゴムシを迷わせたい」と、更なる迷路の工夫に意欲をみせる昆虫博士君

⑤ <子どもの育ちや今後に向けて>

- 壁を高くしても、器用に木っ端の壁を登っていくダンゴムシ。「足はどうなっているのかな？」と追究をダンゴムシのからだのつくり発展させたい。
- 自分の自信のある分野の質問には、初めての人とでも、積極的に会話。コミュニケーション力、自己肯定感が育っています。
- 昆虫への興味が、本人の主体的活動を後押しし、他者との関わりへと世界を広げられている。更に本人の自信へとつながるように、活動発表などにチャレンジさせたい。

- 思考力の芽生え
- 言葉による伝え合い

※幼児期の終わりまで育てて欲しい姿との関連を入れてみてはどうでしょうか（支援員）